

## 令和3年度第1回宮城県周産期医療協議会議事録（決定稿）

■日 時：令和3年10月28日（木）午後6時から午後7時まで

■場 所：宮城県行政庁舎10階 1001会議室

■出席委員：9名（齋藤昌利委員，鈴木久也委員，埴田卓志委員，吉田祐司委員，武山陽一委員，渡邊達也委員，菅原準一委員，濱崎洋一委員，大平貴子委員）

※内WEB出席・・・吉田祐司委員，武山陽一委員，渡邊達也委員，菅原準一委員，濱崎洋一委員，大平貴子委員

### ■開会

○ 進行より，開会の宣告，傍聴の留意事項の説明，新任委員の紹介，資料の確認，定足数の報告及びWEB出席の諸注意等。

### ■議事1 会長及び副会長の選任について

○ 会長：齋藤委員，副会長：鈴木委員に決定。

○ 齋藤会長挨拶

前任の八重樫先生から引き続きまして，本協議会スムーズな運営に携わっていただければと思っております。よろしくお願いいたします。

### ■議事2 第7次宮城県地域医療計画（周産期医療）の進捗管理について

#### 【概要】

○ 「第7次地域医療計画」の周産期医療に関する指標の数値を報告し，意見を伺った。

#### 【事務局説明】

○ 資料1-1に記載した指標は今年度調査した令和2年の最新の調査結果であり，資料1-2に計算根拠となる数値と，関連する統計データを記載している。前年度と比べて周産期死亡率は微増，新生児死亡率は減少，周産期母子医療センター及び病院勤務産婦人科医師1人あたりの分娩取扱数は増加，災害時小児周産期リエゾン委嘱者数は目標達成に向けて増加傾向となっている。

○ 資料1-3は地域医療計画の記載を抜粋したもの。昨年度中間見直しを行っており，修正箇所は赤字となっている。

○ 進行管理の観点から御意見いただきたい。

【委員意見等】

- 2020年度、2021年度の周産期死亡率を聞いて、目標までまだ高い状況ですが、妊娠22週、23週あるいは500gの超低出生体重児の死産数が多いということもあって、非常に難しい週数に対応していただいていることも影響しているのではないかと考えております。(鈴木副会長)
- この辺の数字は年によって少しばらつきがあるということ、言い換えれば、かなりぎりぎりのところまで落ちてきている。なかなか難しい考察になると思います。(齋藤会長)
- 新生児死亡率の方の推移と全国比較について少しコメントさせていただきます。この前、新生児医療連絡会という全国の会議で、厚労省の担当課と事業の中間評価ないし機能評価をどうしようかという話がありました。今、死亡率に関してはほぼ臨界点に達しているのではないかという意見が多かったです。したがって今は死亡率の多少の上下で論ずるのが機能評価には繋がらないような話がありました。それに代わる評価はなかなかなくて、新たな指標に関してはまだ整備できていないです。今、新生児死亡率は臨界点に達していて、上下の推移をみて一喜一憂するものではない、というような考え方がNICUの中でも主流になっていると思っています。全国との差というところは、新生児死亡の中にもかなり多く含まれているのは、妊娠22週という赤ちゃんで、宮城県内の医療施設の中で妊娠22週の赤ちゃんの救命や手術を積極的に行うという風に傾いていないこともありますので、多少の差は出てくるのかなと考えています。(埴田委員)
- 非常に貴重なご意見だと思います。確かにここは多分下がるまで下がっているところだと思いますので、また新たな評価項目を今後の検討が必要ということになると思います。(齋藤会長)
- 災害時リエゾンですが、当院(仙台医療センター)からの担当者がいません。次年度以後ということになるとは思いますがリエゾンの候補に加えていただきたいなと思います。(武山委員)
- 今後、よろしくどうぞお願いしたいと思います。(事務局)
- 菅原先生からの現地点でご発言ありますでしょうか。(齋藤会長)
- 武山先生、ご指摘ありがとうございます。医療政策課の方々とも相談しながら、県の災害体制との齟齬がないように全県見渡ししながら、一応検討させていただいてます。引き続き医療センターの先生方にもお願いすることになると思います。よろしくお願いいたします。(菅原委員)
- 私個人からですが、宮城県と全国の医師1人当たりの分娩取扱数が少し離れてしまっているのが、若干気がかりではございます。後の2024年に始まる働き方改革によって、言葉は悪いですが、ブラック企業と認定されてしまいますと、若い先生方が入ってこないというような悪循環に入ってしまう可能性がありますので、この辺は少し注視をし、大学病院としても活発にリクルートに励んでいきたいというふうに考えております。(齋藤会長)

## ■報告事項1 宮城県周産期医療情報システムの再構築について

### 【概要】

○ 現在再構築を進めている宮城県周産期医療情報システムの進捗及びスケジュールと今後担当者に対応いただく運用テストの概要について説明した。

### 【事務局説明】

○ 新システムは①空床情報、②トップページのお知らせ機能のみとするシンプルなシステムに再構築。

○ 運用テスト期間は今年11月から翌年2月まで。現システムと同様に使用できるか確認してもらう。

### 【委員意見等】

○ 大学病院の場合は、ほぼ毎日、この周産期システムの登録をNICUの先生方とミーティングをした直後に、その日その日の情報を入力しています。コーディネートを使う側、ここにいらっしゃる鈴木先生もそうだと思いますが、この画面が非常に参考になります。シンプルな形で、常に情報が更新されているというのは非常にコーディネートする側としては、クイックに情報の方をキャッチでき、搬送先を相談できるという非常に大きなメリットを持っています。実はこのシステムに関しては、他県からぜひ紹介してくれないか、どういう運用しているかというような、セミナーの依頼などきており、宮城県のこのシステムはシンプルだけと非常に使いやすいというメリットがございます。新しいシステムにバージョンアップした際にもぜひ、各病院の先生方におかれましては情報の更新に努めていただければというふうに思います。(齋藤会長)

○ 災害時の日産婦の情報システムを運用する立場にありますが、災害時にどうやってその二つのシステムをうまく運用していくかということは、課題かなと思いますので、引き続きご検討の方よろしく願いいたします。(菅原委員)

○ 菅原先生おっしゃっているのは、日本産科婦人科学会が主導しています災害時の情報の入力ページ、PEACEというのがございます。例えば大きな地震や災害がありましたという時に、登録されている病院が即座に分娩の受け入れが可能か不可能か、或いは資材があるかないかといった情報を入力するページがございます。非常に機能として二つのHPが似ているかなと思われまので、ぜひ将来的にリンクがつけられれば非常に有用なものになるのではないかと思います。菅原先生、非常に重要な点ご指摘いただきましてありがとうございます。(齋藤会長)

## ■報告事項2 令和3年度宮城県災害時小児周産期リエゾン研究会について

### 【概要】

○ 今年度開催予定の宮城県災害時小児周産期リエゾン研究会の内容について説明した。

### 【事務局説明】

- 令和4年3月3日（木）午後6時から午後8時まで、ウェブ配信形式で開催。2週間程度オンデマンド配信も行う。
- 他県事例も含めたリエゾンの好事例や平時からの準備、診療所との連携等を内容とする。
- 研究会は今年度で最終回。来年度以降は意見交換会を開催し、リエゾン間の情報共有を図る予定。

### 【委員意見等】

- 今回の研究会としては3年目になります。今回は一つの区切りでまとめという形になります。そして、近年多発している大規模災害で御尽力された他県の先生を講師とした内容で開催予定です。また今後はリエゾンとして災害時にどのように活動するかということが重要ですので、県の大規模な災害訓練等にリエゾンが参画することを検討させていただいております。県の方とも相談しながら進めますが、実際どういう活動するかという訓練を今後導入していきたいと考えております。（菅原委員）
- 昨年からはまりまして始めた新型コロナウイルスの対策について、宮城県、あるいは仙台市の方が中心となってかなり急ピッチでシステムが作り上げられたと思います。一方で、大学病院の小児科は埴田先生を中心に、小児科感染症或いは新生児の感染者、或いは大学への産科の方での妊婦の感染者、そういったものの扱いに関して若干混乱やシステムがうまく構築できず、県の方とのリンクをうまくいかない内容がございました。どうしても災害時というと、洪水であったり、地震であったり、そのようなイメージありますが、今現在も菅原先生ご尽力いただいておりますけれど、新型コロナ、そういった新興感染症も災害としてとらえてこういったものの中に組み込まれていき、スムーズな滑り出しができればいいな、と考えているところでございます。なかなか時間をかけて構築するものだと思いますが、この協議会に参加されている皆様方の頭の中にそういう新興感染症を災害の一つだという認識が共有認識としてあればいいなと考えています。かなり初期から対応していただいていた菅原先生にコメントをいただけますでしょうか。（齋藤会長）
- 齋藤先生おっしゃったように、宮城県としてコロナに対してどういうふうに対応するかだと思います。最初に県に申し入れをさせていただいたのは、まさに齋藤先生仰ったように、これは災害だから部署は違うけれども、ぜひ、災害の対応の枠組みの中で、コロナ対応の体制を作っていただきたいということをお話しして、その時点、リエゾンが中心となって、参画するという基本的な枠組みができました。ただ、やはり日頃コーディネートしている様々な、医療側としての枠組みがありますから少し災害対応の枠組みとど

うしてもやはりかみ合わないところが最初出てきたと思います。今回、今落ち着いていますし、今後どのように進めていくかを今考えるタイミングではあります。ぜひ再検討してよりよいものにしていただければと思います。(菅原委員)

○ 菅原先生ありがとうございます。今回、濱崎先生も入っておられますけれども、医会のお力であったり、或いは大学側からの力であったり、或いは県のシステムであったりそういうものをぜひ一つに合わせて、よりスムーズなシステムができればいいなと思っております。(齋藤会長)

### ■報告事項3 周産期医療機能調査について

#### 【概要】

○ 令和3年度周産期医療機能調査結果について報告した。

#### 【事務局説明】

- 令和3年度の調査結果を資料4-1により説明。
- 資料4-2のとおり、平成28年から令和2年の5ヶ年の経年比較のグラフを作成。一部割合で比較できるグラフを追加。

#### 【委員意見等】

- 周産期医療機能調査資料4-1の(2)分娩施設病床数、2021年4月1日現在というところですが、以前石巻日赤病院に確認したときに、石巻日赤のNICUもNICU加算を取り始めたと聞いたのですが、今回加算病床が0となっています。これどちらが正確なのかおしえていただきたいのです。(埴田委員)
- もしかしたらこれは調査を行ったタイミングと加算を取り始めた時期がちょうど入れ違い的な感じになっている可能性もありますか。(齋藤会長)
- 確認します。(事務局)
- すり合わせいただければ結構です。(埴田委員)
- よろしく願います。石巻日赤さんのほうに、大学病院から新生児科の先生が行かれました。地域での役割ということで、今後MFICU等を稼動する可能性も十分にございます。これお願いできればというふうに思います。(齋藤会長)
- 毎年の調査ですが、非常に多岐にわたる調査を行われていて、今回後ろの資料4-2のとおり出ておりますように経年変化がわかりやすいようにまとめていただき、非常に参考になりました。県の方でこれだけでも5年分のデータがございます。おそらくデータベース化されていくかと思えますけれどもこういったデータを、少なくとも委員の先生方に共有していただけると様々なところで活用できるのではないかと思いますので、ぜひご検討よろしく願いいたします。(菅原委員)

○ 私も非常に賛同します。今後10年20年、宮城の周産期を考える上で、この経年的な推移が非常に参考になりますので、ぜひどこか参考にしたい、或いは何か発表の際にこれを使わせていただくなどできれば非常にいいなというふうに考えております。(齋藤会長)

#### ■報告事項4 周産期医療関連事業について

##### 【概要】

○ 令和3年度周産期医療関連事業について説明した。

##### 【事務局説明】

○ 令和3年度周産期関連事業の内容、事業活用状況等を説明。

##### 【委員意見等】

○ 毎年、日本産婦人科学会という大きな産婦人科の学会がありまして、その中で全国国公立大学MFICU会議というのがございます。例年、私と東北大学周産母子センター新生児科の埴田先生と2人で参加させていただいておりますけれども、宮城県は非常に県と周産期医療がかなり密に連絡を取っていて、システムなどが非常に活発に動いている県と認識しています。会議が終わると、どうやって県と親密に連携できているのですかと聞かれることもございます。今後、こういった活動を続けていただき、是非とも、病院と行政が両方で周産期医療を盛り上げていただきたいと考えております。(齋藤会長)

#### (■報告事項3 周産期医療機能調査について 委員意見補足)

○ 資料4-2について、経年変化を見やすくまとめた大変有用なデータですが、4ページ目と5ページ目に、「出生体重別児数、超未熟児、極小未熟児」とありますが、いま医学用語で「未熟児」という用語をい使いませんので、「超低出生体重児、極低出生体重児」に直していただきたいというのが一つ。また「極低出生体重児」にしても、「1,500g未満全部を含みますので、(4)を「極低出生体重児」に直した上で、「(1,000~1,500g)」というふうに表題にも入れた方が勘違いしないと思います。(埴田委員)

#### ■その他

○ 事務局より9月9日に発表した記者発表資料を用いて県立病院等の今後の方向性について改めて説明した。

##### 【委員意見等】

意見なし

【閉会】